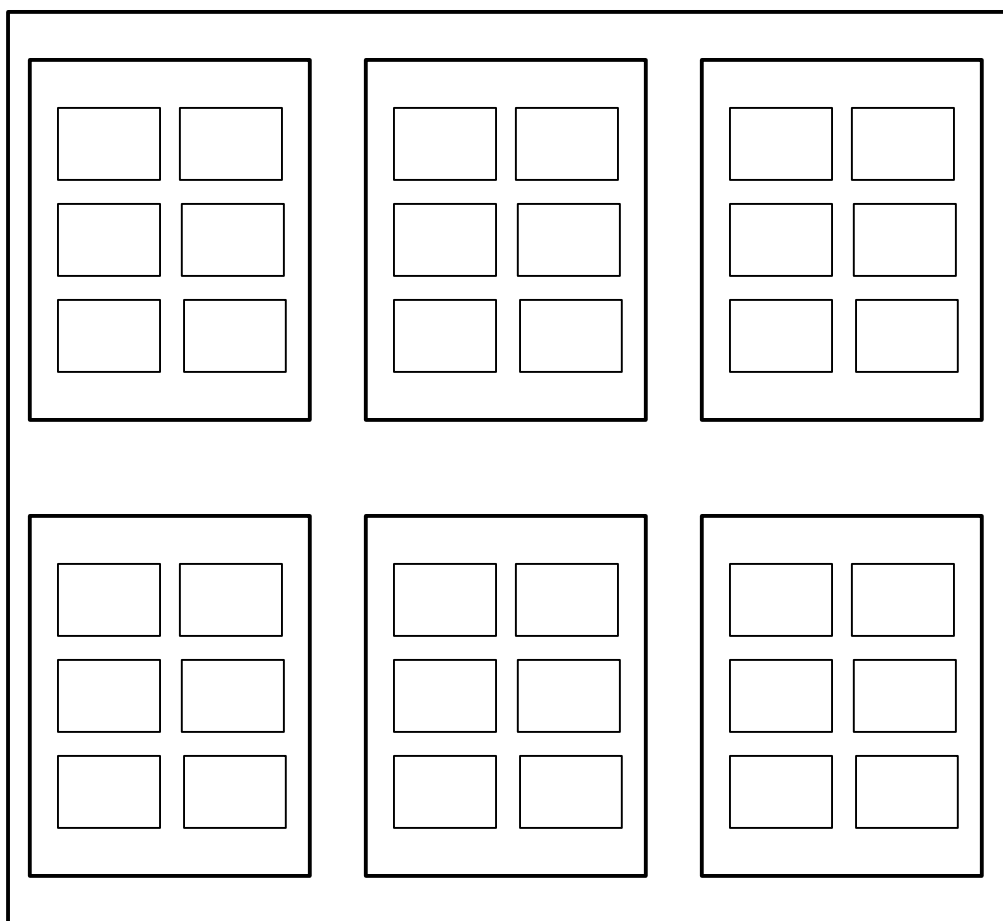


# *GTB*

---

## DLAdjuster ユーザーズマニュアル

---





# 目次

## 第一章 お使いになる前に

1 . 動作環境とインストール	7
1 - 1 . 推奨動作環境	7
1 - 2 . DLAdjuster のインストール手順	8
2 . DLAdjuster 概要	12
2 - 1 . フォルダセット	13
2 - 2 . 補正部位	13
2 - 3 . 補正方法	13
2 - 4 . 取り扱うファイル	15
3 . サンプルアプリケーション	16

## 第二章 操作説明

DLAdjuster のオペレーション	19
1 . 基本画面	19
2 . メニュー構成	21
3 . ダイアログ	24
3 - 1 . ホットフォルダ設定	24
3 - 1 - 1 . 設定ダイアログ	24
3 - 1 - 2 . ホットフォルダの設定	26
3 - 1 - 3 . 修正方法の設定	31
3 - 1 - 4 . 調整量設定 (階調ごとに調整量指定)	32
3 - 1 - 5 . 調整量設定 (自動調整)	38
3 - 2 . 色版の設定	39
3 - 3 . オプションの設定	43

4 . HTML によるログファイルの出力 .....	44
5 . トラブルシューティング .....	44

## 第一章

# お使いになる前に

動作環境とインストール

DLAdjuster 概要



# 1. 動作環境とインストール

## 1-1. 推奨動作環境

入力フォーマット : TIFF (1ビット)

出力フォーマット : TIFF (1ビット)

コンピュータ本体 : Pentium 600MHz以上

メモリ : 128MB以上

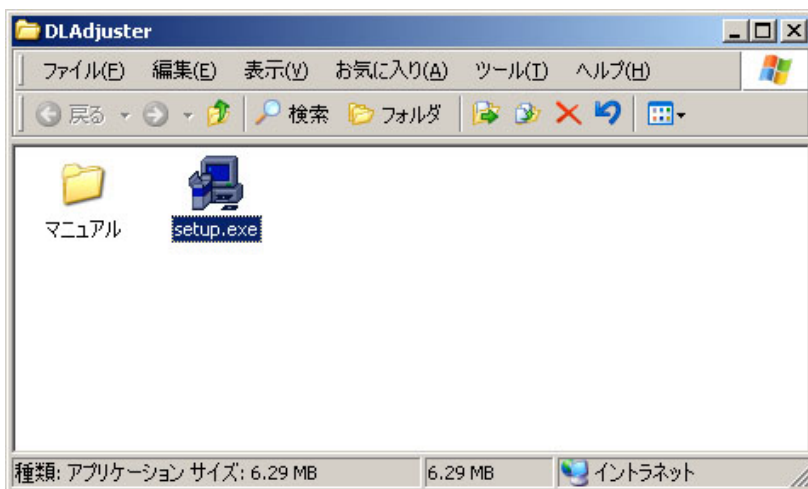
ハードディスク : 20GB以上

OS : WindowsNT サービスパック5以上

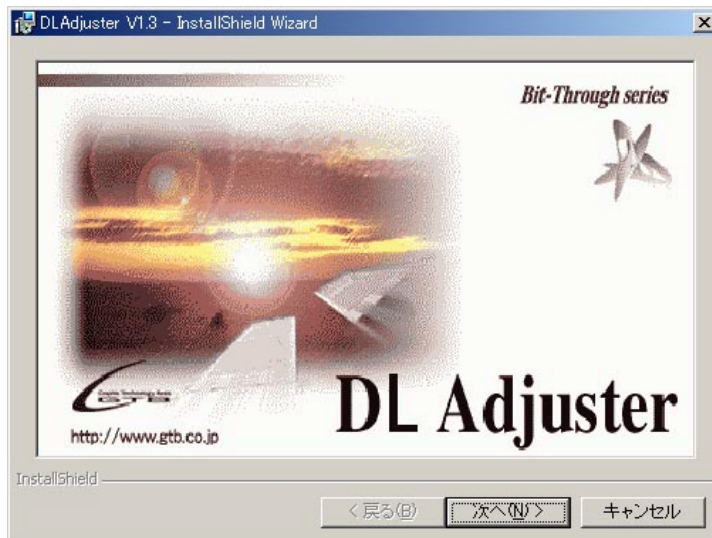
: Windows2000

## 1 - 2 . DLAdjuster のインストール手順

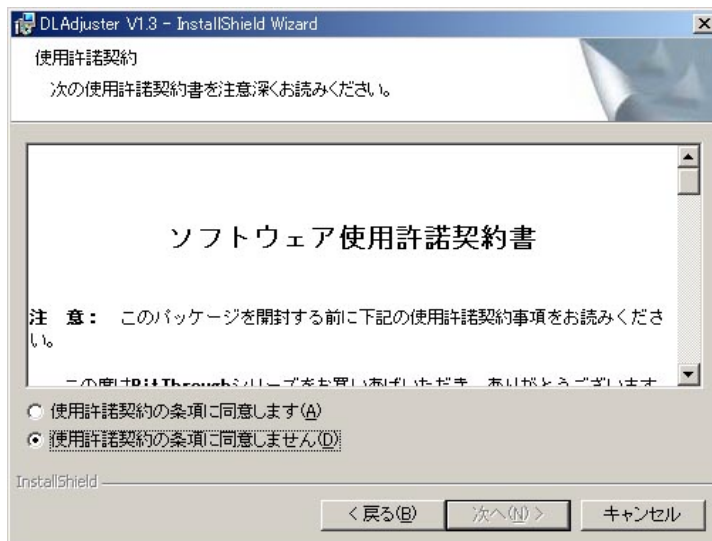
(注意) DLAdjuster は、起動前にハードウェアキーが接続されている必要がありますので注意して下さい。接続されていない場合は、機能を確認する為のサンプルアプリケーションとなります。



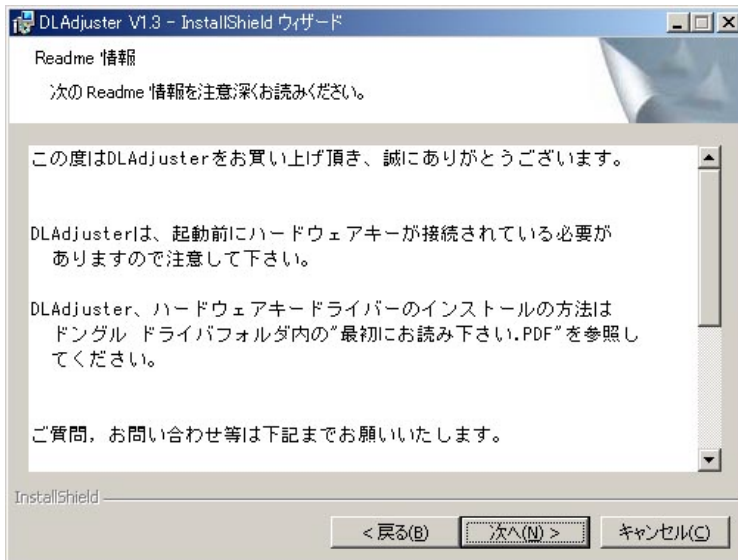
1) C D - R O M内にある「setup.exe」をダブルクリックします。



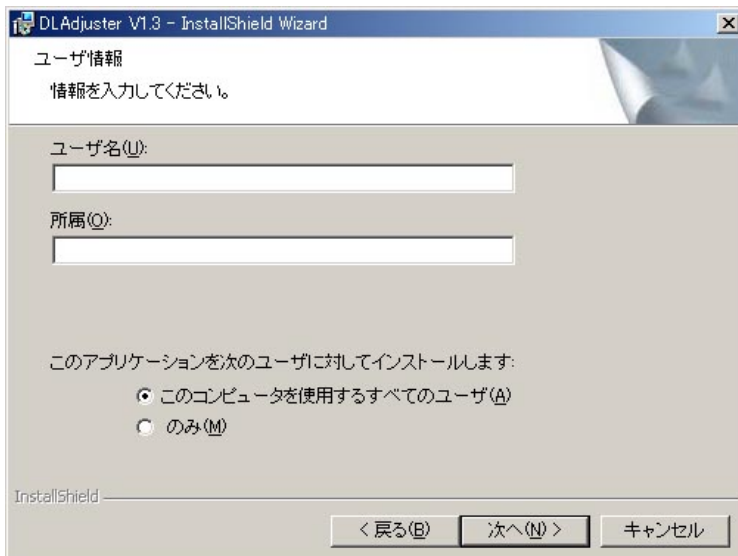
2) インストールを行う製品のセットアップウィザードが起動しますので「次へ(N)」をクリックします。



3) 製品の使用許諾が表示されますのでよくお読みください。同意いただいた場合、本製品のインストールが可能となりますので「次へ(N)」をクリックします。



4)インストールにあたっての注意事項と製造元の情報が表示されます、よくお読みの上「次へ (N)」をクリックします。



5)名前と所属会社名を入力し、「次へ (N)」をクリックします。



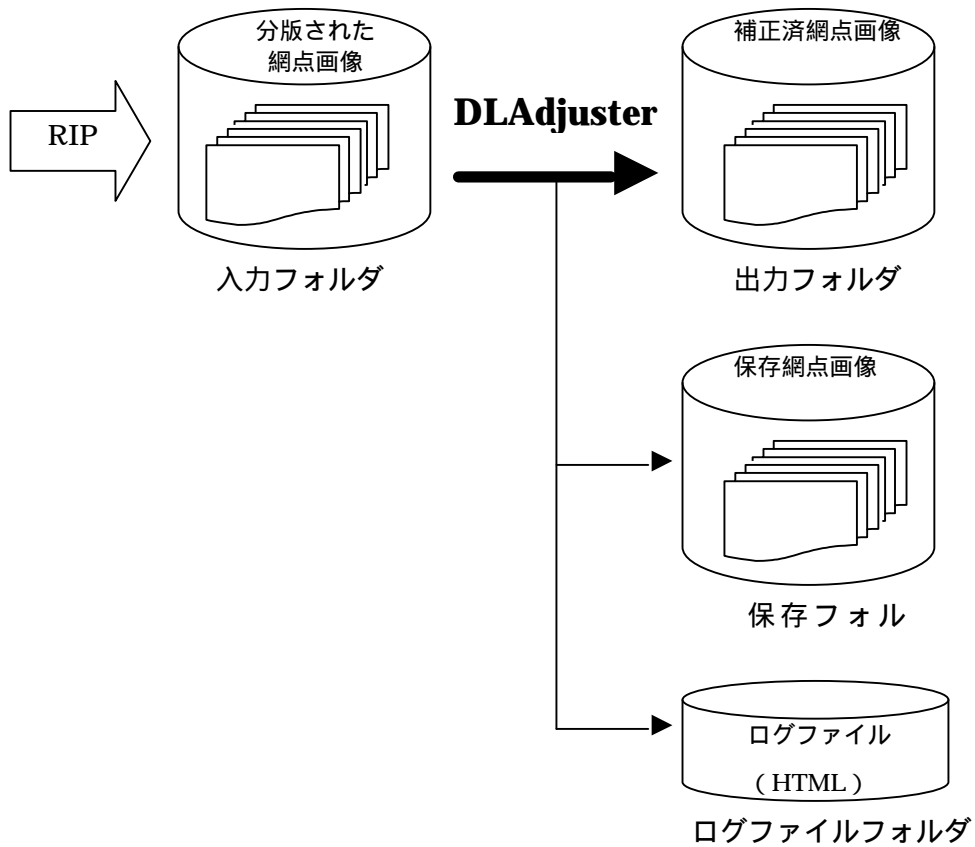
6) インストール先のフォルダを指定します。

変更する場合は「変更(C)...」をクリックして、パスを直接入力するか、ディレクトリを指定します。「次へ(N)」をクリックするとアプリケーションのインストールを開始します

## 2 . DLAdjuster 概要

DLAdjuster はバッチ処理で RIP 後の網点画像（1bitTIFF）を自動的に網点部と文字部に分け、各部にドットゲイン補正及び文字周囲補正を行います。

入力フォルダを一定間隔で監視し、新しい網点画像ファイルが入っていれば自動的に補正をし、補正済み画像を出力フォルダ、入力画像を保存フォルダに、処理結果のログをログファイルフォルダに保存します。



## 2 - 1 フォルダセット

監視を行う入力フォルダや処理後の出力フォルダなどフォルダの組み合わせと、ドットゲイン補正值などのパラメータ設定をまとめてフォルダセットと呼びます。複数のフォルダセットを設け、対象C T Pや印刷機に合わせて異なったドットゲイン補正を行えます。

## 2 - 2 補正部位

画像は網点部と文字部に分けられます。

## 2 - 3 補正方法

網点部及び文字部の補正を行います。

### 2 - 3 - 1 ドットゲイン補正

主に網点部のドットゲイン調整を行うもので、2つ補正方法があります。

#### 1) 階調ごとに調整量指定

補正すべき画像の階調値に対応する出力階調値を示す補正カーブにより補正を行えます。

この場合には「網点階調」及び「スクリーニング」の指定が必要です。

#### 網点階調

網点の任意部の階調を決定する指標となるもので、この設定によって商業印刷からコミック版（スクリーントーン）までの補正が可能となります。

#### スクリーニング

RIPによるドットの形成方法（AM又はFMスクリーニング）を指定する必要があります。

## 2) 自動調整

最大補正量（階調値50%近辺）の値を指示しての自動補正を行えます。

最大補正量の設定だけで、ドットゲイン補正が行えます。

但し、スクリーニングはAM、高解像度（2400DPI、150線が基本）画像に対してのみ有効です。

### 【注】補正量の最大値について

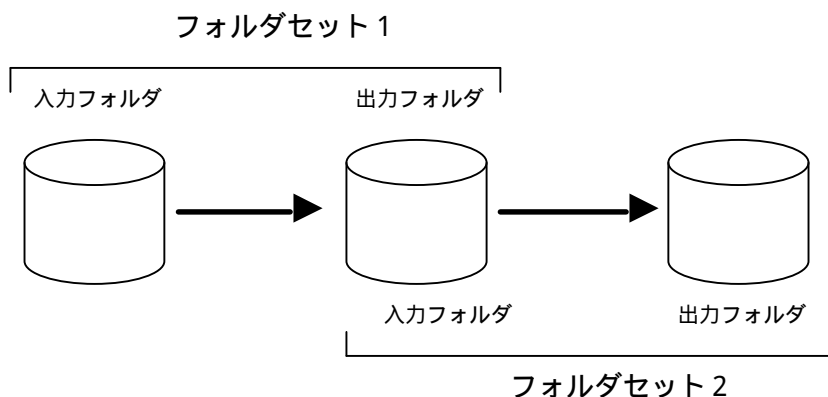
DLAdjusterでは画像品質をできるだけ保ちながらドットゲイン補正量に応じて網点を変化させます。その為“階調ごとに調整量指定”、“自動調整”ともにドットゲイン量が最大となる中間階調値（50%辺り）で約14%が最大補正可能量となります。

それ以上の補正が必要な場合は任意のフォルダセットの出力フォルダを他のフォルダセットの入力フォルダとし、多重にドットゲイン補正をかけることができます。この場合前者の補正量は最大補正可能量を超える（例えば20%）ように設定し、後者は

必要補正量（例えば25%） - 最大補正可能量（14%）

として設定します。

但し、多重のドットゲイン補正では網点、文字など画像品質に影響がでる場合がありますので、出力による品質確認を行ってください。



## 2 - 3 - 2 文字周囲補正

文字の周辺（下辺及び左辺、上辺及び左辺、又は全周）に画素を画素を追加または削除し文字部の太らせ、細らせが行えます。

## 2 - 4 . 取り扱うファイル

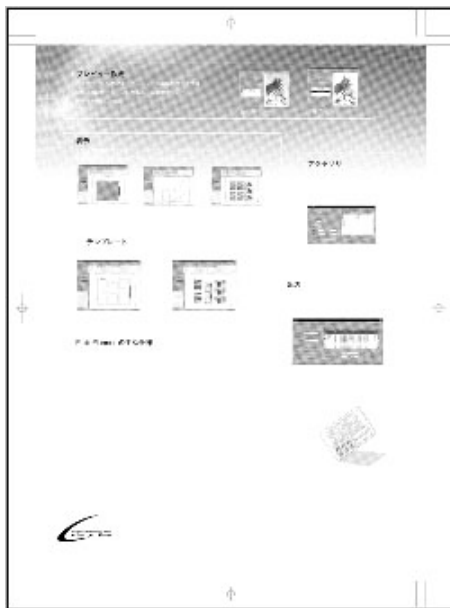
DLAdjuster では 1bitTIFF ファイル (.tif) を取り扱います。

### 3. サンプルアプリケーション

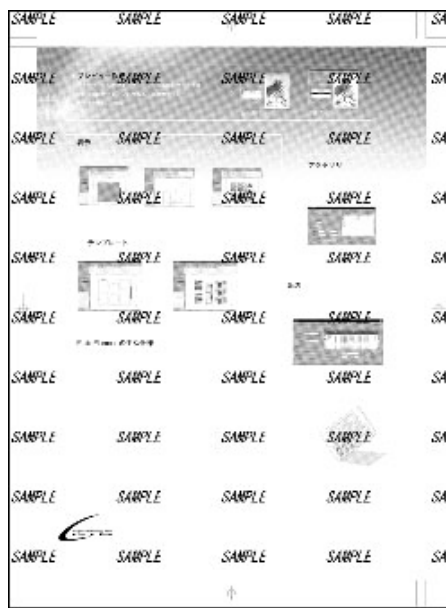
ハードウェアキー(コピーガード)を接続しないで動作させた場合、有効期限内でだけサンプルアプリケーションとして動作します。

サンプルアプリケーションでは、全機能が使用できますが、出力画像内に“SAMPLE”の文字が埋め込まれます。また本来の処理よりも多くの時間を要します。(“Creating Sample Images”のメッセージがプログレスバーに表示されている時間が加算されます。)

本来の画像



サンプルアプリケーション時の画像



## 第二章

# 操作説明

DLAdjuster のオペレーション

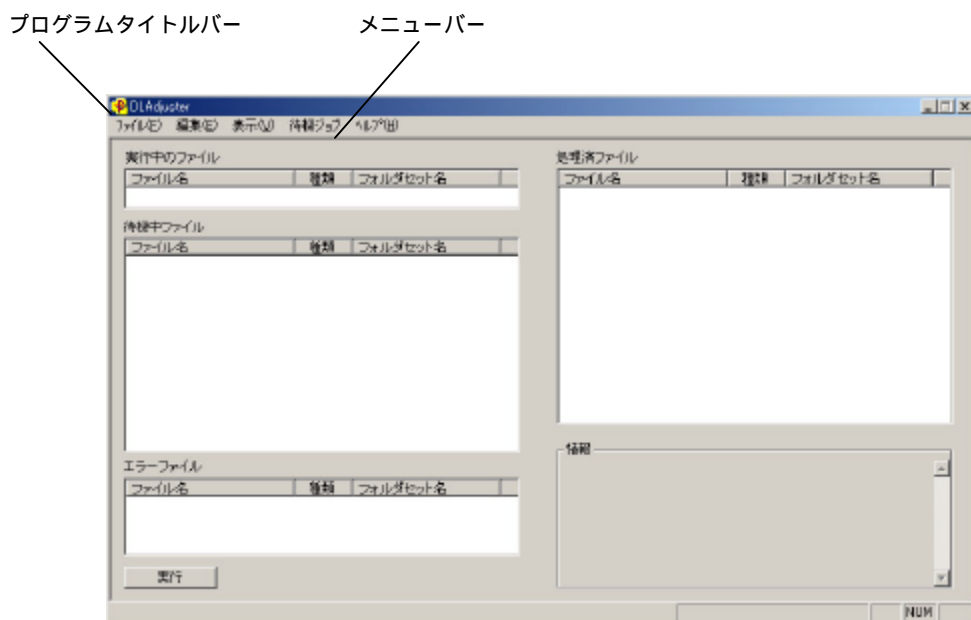


## DLAdjuster のオペレーション

「DLAdjusterHF.exe」のアイコンをダブルクリックしますと DLAdjuster が起動し、基本画面が表示されます。

基本画面は、現在の処理状況を表します。各種設定を完了させ「実行」ボタンをクリックすればフォルダセット毎の入力フォルダ監視が始まり、網点画像が入力フォルダに移されるとドットゲイン補正が行われます。

### 1 . 基本画面



『プログラムタイトルバー』

ウィンドウやダイアログボックスの名前が表示されるバー

『メニューバー』

メニュー名が表示されるバー

#### 【実行中のファイル】

現在処理されている網点画像ファイル名とそのフォルダセット名が表示されます。

#### 【待機中のファイル】

入力フォルダに入っているファイルのうち未処理のものが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

#### 【処理済ファイル】

入力フォルダに入っていたファイルのうち、プレビュー作成処理の終了したファイルが表示されます。表示されているファイル名をクリックすると入力フォルダ、出力フォルダ、処理済ファイルの移動先などが「情報」枠に表示されます。

#### 【エラーファイル】

何らかの原因で処理ができなかったものが表示されます。表示されているファイル名をクリックするとエラー原因の簡単な説明が「情報」枠に表示されます。

#### 【一時停止・実行ボタン】

フォルダのチェックを一時的に停止させたり、再び実行させたりできます。

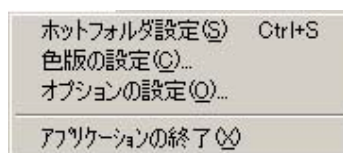
#### 【情報（枠）】

リストのひとつをクリックして選択すると、関連の情報が表示されます。

## 2 . メニュー構成

基本画面のメニューバーをクリックし、メニューを選択すれば個々の設定や確認ができます。

### 2 - 1 . ファイルメニュー

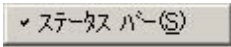


- 1 ) ホットフォルダ設定  
フォルダーセットの設定をします。
- 2 ) 色版の設定  
使用版及び各版の名称規則の設定をします。
- 3 ) オプションの設定  
作業ベースフォルダの設定をします。
- 4 ) アプリケーションの終了  
このアプリケーションを終了します。

### 2 - 2 . 編集メニュー

現在は使用できません。

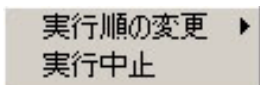
## 2 - 3 . 表示メニュー



### 1) ステータスバー

基本画面下部のステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。

## 2 - 4 . 待機ジョブメニュー



待機ファイルウィンドに表示されているファイルを選択 (Shift、Ctrl キーを使って複数選択も可) し、該ファイルの処理の実行を中止したり、実行順を変えることができます。

フォルダ監視実行中の場合は一時停止とし、指示後再度実行させます。

### 実行順の変更

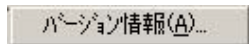


選択ファイルの実行順を “最初” または “最後” に変更できます。

### 実行中止

選択ファイルを中止できます。

## 2 - 5 . ヘルプメニュー



### 1 ) バージョン情報

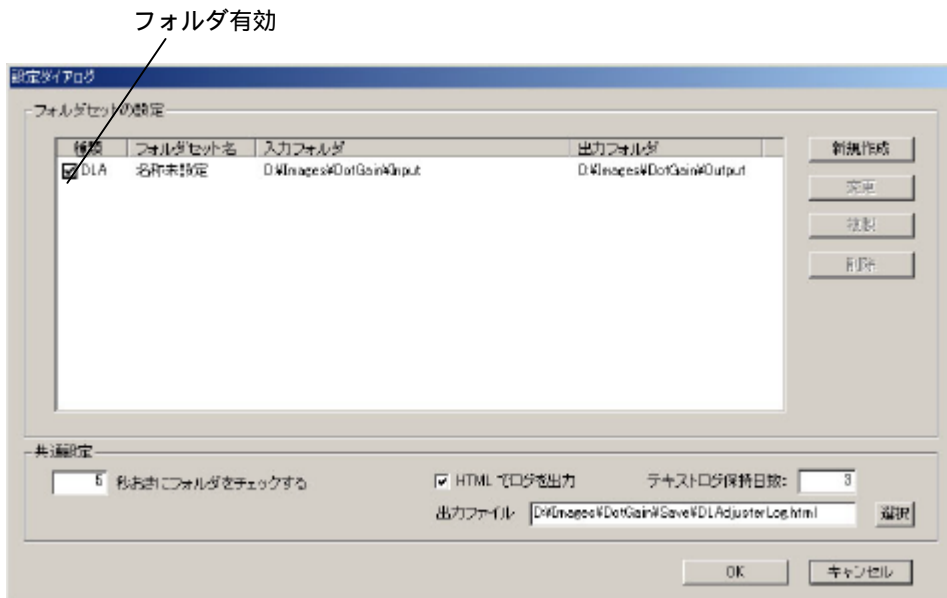
DLAdjuster のバージョン情報が表示されます。

### 3. ダイアログ

#### 3 - 1. ホットフォルダ設定

##### 3 - 1 - 1. 設定ダイアログ

基本画面の「ファイルメニュー」から「ホットフォルダ設定」を選択すると、「設定ダイアログ」が表示され、フォルダセットの登録などの設定を行えます。設定が完了すれば「OK」、設定を無効にする場合は「キャンセル」をクリックします。



#### 【フォルダセットのリスト】

現在設定されているフォルダセットが一覧表示されます。任意のフォルダセットをダブルクリックすると「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

各フォルダセットの左端に「フォルダ有効」チェックボックスがあり、チェックをした場合だけ有効なフォルダセットとなります。

#### 【新規作成 ( ボタン )】

新しいフォルダセットが作成され、「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

#### 【変更 ( ボタン )】

選択されているフォルダセットについての「ホットフォルダの設定」ダイアログが開かれます。

#### 【削除 ( ボタン )】

選択されているフォルダセットを削除します。やり直しはできません。

#### 【共通設定】

##### ・ 秒おきにフォルダをチェックする

入力フォルダをチェックする間隔を指定します。基本画面で「一時停止」されたとき以外はこのタイミングでフォルダがチェックされます。

##### ・ HTML でログ出力

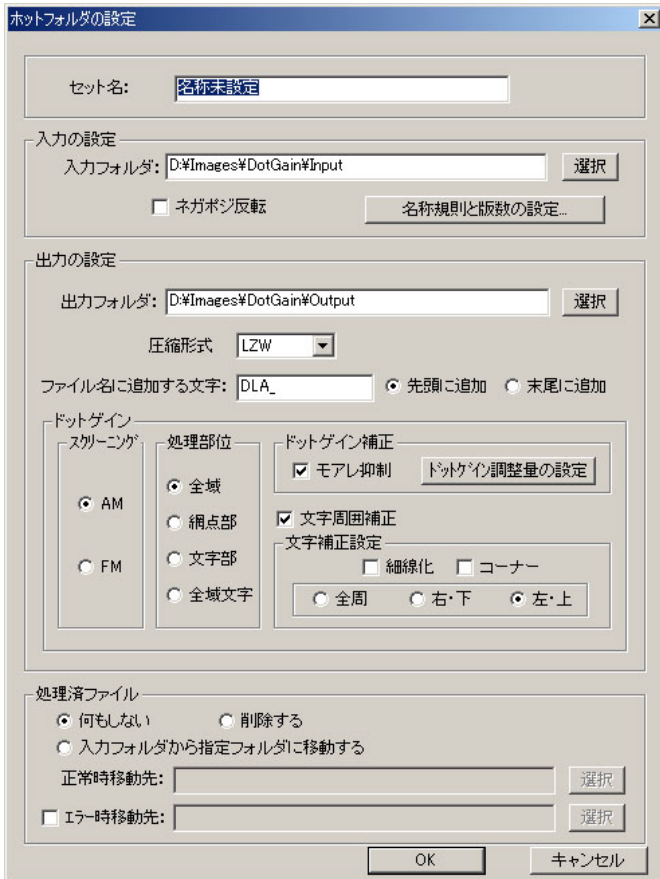
ログファイルを HTML で書き出し、WWW ブラウザでログの確認をできるようにします。詳しい解説は「HTML によるログファイルの出力」のところをご覧ください。

##### テキストログ保持日数

ログは一日ごとに 1 ファイルが作成されます。テキストログ保持日数の経過したログファイルは削除されます。

### 3 - 1 - 2 . ホットフォルダの設定

ドットゲイン補正を行うホットフォルダのセットを作成できます。



#### 3 - 1 - 2 - 1 . セット名

##### 【セット名】

フォルダセットの名称を自由に設定できます。ドットゲイン補正值や対象CTP、印刷機などの名前を設定しておくこともできます。

### 3 - 1 - 2 - 2 . 入力の設定

#### 【入力フォルダ】

自動監視するホットフォルダ名を入力します。「選択」ボタンをクリックして、フォルダ選択ダイアログによって入力フォルダを選択することもできます。あらかじめ入力フォルダを用意していない場合は、フォルダ選択ダイアログの新規作成ボタンを押すことにより、新しくフォルダを作成すると同時に、入力フォルダとして指定することができます。

「入力フォルダ」に「名称規則と版数の設定」で定められたファイルが入れば自動的にドットゲイン補正を開始します。

#### 【名称規則と版数の設定】



色版数と版名の名称規則の設定をします。詳しい説明は後述する「色版の設定ダイアログ」を参照して下さい。

#### 【ネガポジ反転】

画像情報とは別に入力網点画像の白黒反転を強制的に行い、ドットゲイン補正を行った後、再度白黒反転を行い保存します。

### 3 - 1 - 2 - 3 . 出力の設定

#### 【出力フォルダ】

出力フォルダはドットゲイン補正済画像を保存するフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

#### 【圧縮形式】



ドット補正後のファイルの圧縮形式を指定します。

#### 【ファイル名に追加する文字列】

入力ファイル名にこの文字列が追加され出力ファイル名となります。

例えば入力ファイル名を

「A 4パンフレット.tif」

追加文字列を

「CTP 1\_\_」

とすると

先頭に追加なら「CTP 1\_\_A 4パンフレット.tif」

末尾に追加なら「A 4パンフレットCTP 1\_\_.tif」

となります。対象CTP名や印刷機名、ドットゲインの補正率などを追加文字列とすればファイル名で補正内容の管理ができます。但し末尾に追加の場合、色名規則外の画像名となり、BitThrough アプリケーションでは使えない場合がでてきます。十分注意して下さい。

#### 【スクリーニング】

スクリーニングの方法、AM 又は FM を指定します。

### 【処理部位】

ドットゲイン補正を画像の像域を指定して行えます。全域（網点部、文字部共）網点部、文字部の指定ができます。文字部と網点部の補正值（カーブ）を変える場合は、文字部処理用と網点部処理用フォルダセットを用意し、文字部の出力フォルダを網点部の入力フォルダとして連続処理ができます。

### 【ドットゲイン補正】

#### モアレ抑制

ドットゲイン補正では網点に画素が増減され網点形状が変化します。その場合にモアレの発生を抑え、ランダムに画素の増減を行うのがモアレ抑制です。モアレ抑制を指定しない場合は網点をできるだけ集中させた形状になるように画素の増減を行います。ただ、モアレ抑制をしなかった場合、特にスクリーン角が0、45度の版にパターンが発生する場合があります。増減された画素の位置が最終印刷物にあまり影響を与えない高解像度（2400 DPI程度）の画像の場合はモアレ抑制（チェックボックスにチェックを入れる）でお使いください。低解像度の場合はモアレ抑制を行わない方（チェックボックスからチェックを外す）が良い場合もあります。

#### ドットゲイン調整量の設定

「修正方法の設定」ダイアログが開かれ、ドット補正量の設定ができます。

### 【文字周囲補正】

#### 文字周囲補正（チェックボックス）

文字周囲補正を指定すると文字周囲に画素が付加又は削除され太線化または細線化が行えます。

#### 細線化

細線化の指示をした場合は細線化、指示しない場合は太線化になります。

#### コーナー

次項（ 周囲部位 ）にて指定される周囲部位のコーナーに画素の付加または削除を行う為の指示です。

#### 周囲部位

太線化、細線化の処理を行う部位を指定します。

部位には全周、右・下、左・上があります。

太線化、コーナーあり、全周

（マゼンタ部分に画素が付加されています）



細線化、コーナーなし、右・下

（シアン部分の画素が削除されています。）



### 3 - 1 - 2 - 4 . 処理済ファイル

処理済入力ファイルの処理を設定します。処理は

何もしない

ファイルは入力フォルダに保存されます。

削除する

ファイルは削除されます。

入力フォルダから指定フォルダに移動する

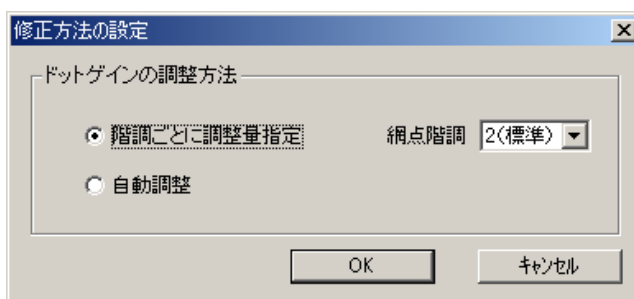
ファイルは以下の移動先で指定されたフォルダに移動されます。

が選べます。

#### 【移動先】

処理済入力ファイルを移動するフォルダです。設定方法は入力フォルダと同じです。

### 3 - 1 - 3 . 修正方法の設定



ドットゲインの修正方法を設定します。

修正方法には

- 1) 階段ごとに調整量指定
- 2) 自動調整

があり、一方を選び「OK」を押すと選択された方法に応じた「調整量設定ダイアログ」が開かれ、ドットゲイン補正量の設定ができます。「キャンセル」を押すと「ホットフォルダの設定」ダイアログに戻ります。

階段ごとに調整量指定の場合には「網点階調」の指定が必要です。

「網点階調」は網点の任意部の階調を決定する指標となるもので、1網点のサイズにより決定します。商業印刷でよく使われる2400DPI、150線程度の画像では

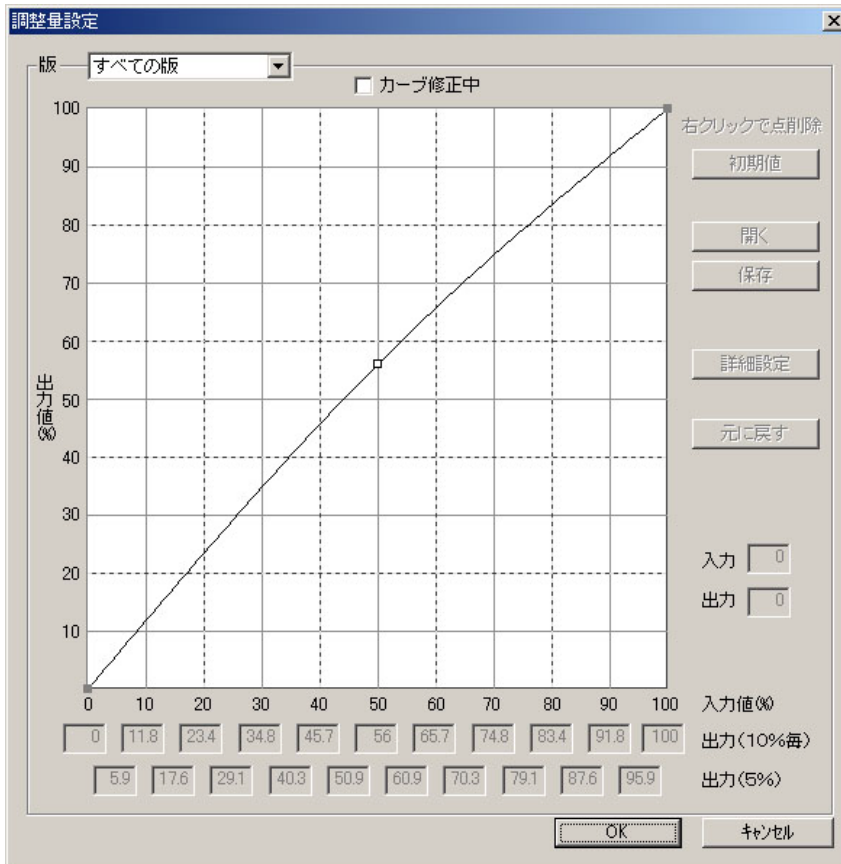
2(標準)

に設定してください。スクリーントーンを高精度にスキャンした画像(今回テストに送って頂いた2400DPI,100線程度)などでは3に、また50線程度のスクリーントーンの場合は4か5程度がよいと思われます。(16\*16画素に網点4\*4個が入る程度の解像度、線数の場合は0)

目安としては(解像度 ÷ 線数)が小さい場合は「網点階調」も小さく、逆では大きく設定してください。「網点階調」が適正值より小さ過ぎると補正部が偏りパターンの発生につながります。また大きすぎる場合はドットゲイン補正時に周辺階調の影響を受けやすく、補正された画像が少々鈍りやすくなります。(ほとんど目立つことはないと思われますが)

### 3 - 1 - 4 . 調整量設定 (階調ごとに調整量指定)

「修正方法の設定」ダイアログで「階調ごとに調整量指定」を選んだ場合、以下のような「調整量設定」ダイアログが表示され、階調毎のドットゲイン補正值を設定できます。



【版】



設定する版を選びます。「全ての版」と「名称規則と版数の設定」ダイアログで設定されたものが選択できます。「全ての版」を選択した場合、設定した曲線は各版に全て設定されます。

但しこのダイアログを閉じた後、再度「全ての版」を選択しても前回の設定値は保存されていません。各版ごとには保存されていますので設定値を確認してください。

#### 【カーブ修正中】

このチェックを入れると設定値の修正ができます。

#### 【初期値】

選択されている版の補正量を初期化（補正量0）します。「全ての版」が選択されている状態のときは全版を初期化します。

#### 【元に戻す】

「元に戻す」ボタンを押すとトーンカーブへの変更を一度だけ元に戻すことができます。

#### 【点の削除】

トーンカーブの設定ポイントはマウスの右クリックで削除できます。

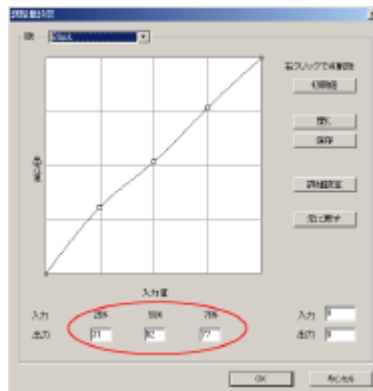
#### 【トーンカーブの設定】

トーンカーブは下の方法で設定することができます。

- A．入力値25、50、75%に対する出力値を数値指定する方法
- B．入力値と出力値を数値指定する方法
- C．トーンカーブの上をクリックまたはドラッグする方法
- D．タブ区切りで入力値、出力値を指定する方法

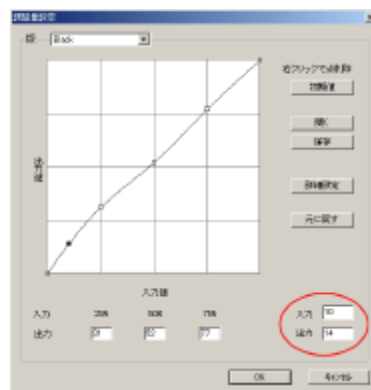
### A . 入力値 25、50、75 % に対する出力値を数値指定する方法

右図の赤丸の中にあるテキストボックスに出力値を設定すると、自動的にトーンカーブに反映されます。



### B . 入力値と出力値を数値指定する方法

右図の赤丸の中に入力値と出力値を設定すると、自動的にトーンカーブに反映されます。指定された入力値にトーンカーブのポイントが無い場合は自動的に追加され、すでに存在する場合は出力値が変更されます。



### C . トーンカーブの上をクリックまたはドラッグする方法

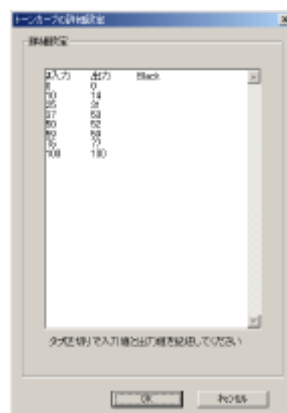
トーンカーブの一部をクリックしたとき、その入力値付近にポイントが存在すれば、そのポイントの現在値が「入力」「出力」のボックス内に表示されます。

そのままポイントをドラッグすることでポイントの位置を変更していくことができます。ドラッグ中はそのポイントの現在値が「入力」「出力」のボックス内に表示されます。

クリックした入力値付近にポイントが存在しない場合は新たにポイントが生成されます。既存のポイントと同様にドラッグすることができます。

#### D．タブ区切りで入力値、出力値を指定する方法

「詳細設定」ボタンをクリックすると、右図のようなダイアログボックスが表示されますので入力値と出力値をタブ区切りで記述していきます。



例)

#	入力 [Tab]	出力 [Tab]	Black [Enter]
0	[Tab]	0	[Enter]
20	[Tab]	18	[Enter]
30	[Tab]	28	[Enter]
50	[Tab]	50	[Enter]
68	[Tab]	72	[Enter]
82	[Tab]	86	[Enter]
100	[Tab]	100	[Enter]

入力値は0～100の範囲で101点まで設定できます。必ず小さい入力値が上に来るように順番に記述して下さい。

入力値、出力値ともに整数として扱われ、小数部分は無視されます。

ここで使用される書式と、後述のテキスト形式で保存された書式とは同じ形式になっていますので、保存されたデータの適切な版の部分をコピー & ペーストすることが可能です。

### 【保存、開く】

「保存」ボタンを押すと現在のトーンカーブを全版まとめて保存します。旧バージョンでは独自フォーマットの「.curve」という拡張子のファイルが生成されましたが、新しいバージョンでは「.txt」というテキストファイルとして出力する方法が追加され、こちらがデフォルトとして使用されます。旧バージョンの「.curve」形式も入出力できます。

テキストで出力した場合はタブ区切り文字列が版ごとに連続して記述されることとなります。

テキスト保存の例)

#入力	[Tab]	出力	[Tab]	Cyan	[Enter]
0	[Tab]	0	[Enter]		
25	[Tab]	31	[Enter]		
50	[Tab]	52	[Enter]		
75	[Tab]	77	[Enter]		
100	[Tab]	100	[Enter]		
#入力	[Tab]	出力	[Tab]	Magenta	[Enter]
0	[Tab]	0	[Enter]		
13	[Tab]	21	[Enter]		
26	[Tab]	34	[Enter]		
50	[Tab]	45	[Enter]		

100 [Tab] 100 [Enter]  
#入力 [Tab] 出力 [Tab] Yellow [Enter]  
0 [Tab] 0 [Enter]  
25 [Tab] 31 [Enter]  
77 [Tab] 87 [Enter]  
100 [Tab] 100 [Enter]  
#入力 [Tab] 出力 [Tab] Black [Enter]  
0 [Tab] 0 [Enter]  
10 [Tab] 14 [Enter]  
37 [Tab] 53 [Enter]  
59 [Tab] 59 [Enter]  
100 [Tab] 100 [Enter]

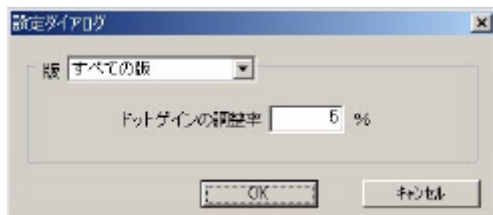
「開く」ボタンを押して、過去に保存された「.txt」または「.curve」を指定すると読み込まれた値が反映されます。

#### 【OK、キャンセル】

補正量を設定後「OK」により補正量が確定され、「キャンセル」では設定が無効となり前回の設定値が保たれます。

### 3 - 1 - 5 . 調整量設定 (自動調整)

「修正方法の設定」ダイアログで「自動調整」を選んだ場合、以下の「調整量設定」ダイアログが表示され、ドットゲイン調整率を設定できます。この補正量は中間階調値（50%前後）で最大になるドットゲイン量です。補正量を設定後「OK」により補正量が確定され、「キャンセル」では設定が無効となり前回の設定値が保存されます。

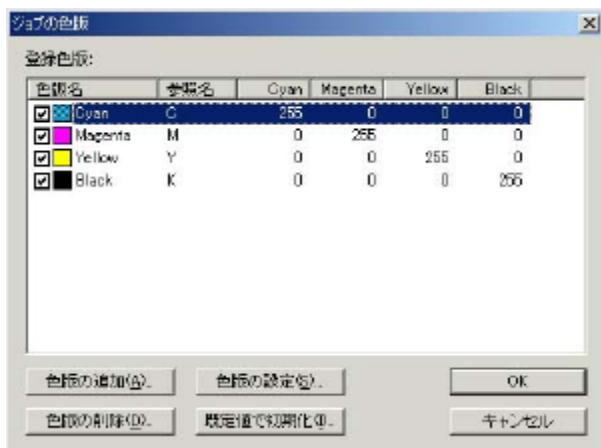


#### 【版】

「調整量設定（階調ごとに調整量指定）」と同様です。

### 3 - 2 . 色版の設定

基本画面の「ファイルメニュー」から「色版の設定」を選択すると、使用版の登録などの設定を行う「色版の設定ダイアログ」が表示されます



・色版名

色版の名称とカラーイメージアイコンを表示します。  
この名称はカラーパレットのリスト等の項目表示に使用します。

・参照名

色版の参照名を表示します。  
監視フォルダのファイルが対象原稿の色版かどうかを判断します。

・Cyan

カラー表示用の Cyan 要素の値 ( 0 ~ 2 5 5 ) を表示します。

・Magenta

カラー表示用の Magenta 要素の値 ( 0 ~ 2 5 5 ) を表示します。

・Yellow

カラー表示用の Yellow 要素の値 ( 0 ~ 2 5 5 ) を表示します。

- ・ Black

カラー表示用の Black 要素の値 ( 0 ~ 2 5 5 ) を表示します。

### 【色版の追加ボタン】

システム設定の色版既定値に新たな色版を追加するため、以下のダイアログが表示されます。



- ・ 色版名

色版名を表示します。変更する場合は新たな名称を入力します。

この名称はユーザー自身が色版を識別するための名称で、カラーパレットのリスト等の項目表示に使用します。

- ・ 参照名

色版の参照名を表示します。変更する場合は新たな名称を入力します。この名称は原稿の色版を識別するための名称で、原稿の登録時に網点 ( 色版 ) ファイルと色版を対応付けし、刷版の出力時のファイル名に使用します。

色版の参照名では、大文字、小文字の区別はしていません。

**重要**：RIP によって網点（色版）ファイルの名称に付加される色名を入力してください。

・Cyan

カラー表示用の Cyan 要素の値（0～255）を表示します。  
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・Magenta

カラー表示用の Magenta 要素の値（0～255）を表示します。  
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・Yellow

カラー表示用の Yellow 要素の値（0～255）を表示します。  
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・Black

カラー表示用の Black 要素の値（0～255）を表示します。  
変更する場合は値を入力するか、スライダーバーを操作します。

・カラーイメージ

「Cyan」、「Magenta」、「Yellow」、「Black」で設定している値からカラーのイメージをリアルタイムに表示します。

・OK ボタン

設定を確定してダイアログを終了します。

・キャンセル ボタン

何もせずにダイアログを終了します。

**【色版の設定】**

システム設定色版既定値に登録している各色版を設定します。

**【色版の削除】**

システム設定の色版既定値から色版を削除します。

**【登録の初期化】**

システム設定の色版既定値の登録を初期状態に戻します。

### 3 - 3 . オプションの設定

基本画面の「ファイルメニュー」から「オプションの設定」を選択すると、使用版の登録などの設定を行う「オプションの設定ダイアログ」が表示されます。

今バージョンでは使用しません。

## 4 . HTML によるログファイルの出力

DLAdjuster の処理状況をクライアントマシンの WWW ブラウザ ( InternetExplorer、 Netscape など ) から見るすることができます。

### 設定方法

- 1、DLAdjuster の「設定ダイアログ」でログの出力先を指定します。クライアントマシンからログを見るためには共有されたフォルダを指定します。OK ボタンを押した段階でログファイルが生成されます。
- 2、クライアントマシンの WWW ブラウザを起動し、生成されたログファイルをドラッグします ( または、WWW ブラウザのメニューからファイルを指定します )。
- 3、今後 2 の処理をしなくてすむように、WWW ブラウザの「お気に入り」に登録します。( Netscape の場合はブックマークに登録 )

## 5 . トラブルシューティング

入力フォルダに入れたのに、プレビューが作成されない。

設定が正しいのにドットゲイン補正が開始されない場合は、DLAdjuster とおなじフォルダにある「HfJoblist.def」というファイルを削除してみてください。これにより、これまでに実行したファイルの情報が消されるので、入力フォルダにある全てのファイルを処理に行きます。